



i-Constructionの取り組みでは、ICT技術の全面的な活用の関心が高く、これまで、15の基準や施工法、受発注者向けの講習会、3次元測量、3次元設計データの作成方法などについて紹介してきました。一方、i-Constructionの3本柱のうち「規格の標準化」「施工時期の平準化」についても、現場の生産性を向上させる重要な施策で、北陸地方整備局では積極的に取り組むこととしています。今回の「北陸i-Construction通信」は、これらの取り組み内容や状況を広く、皆様にお知らせすることにより、より一層の取り組み推進をはかるものです。

**最新ニュース**

今年度、北陸地方整備局でICT土工の発注者指定型で予定していた2件の工事は、いずれも契約締結がされました。

また、施工者希望型は、国道253号野田地区舗装他その2工事など16件の工事で既に契約締結し、このうち、7件の工事で3次元起工測量から3次元データの納品までを行う「ICT活用工事」の希望があり、協議が整いました。既に一部の工事では、UAVによる起工測量も終了し、これから本格的に工事が始まります。

**本号の掲載内容**

ICT技術の活用	特に無し
規格の標準化	プレキャストコンクリート製品活用事例等
施工時期の平準化	平準化の具体的取り組み

**規格の標準化**

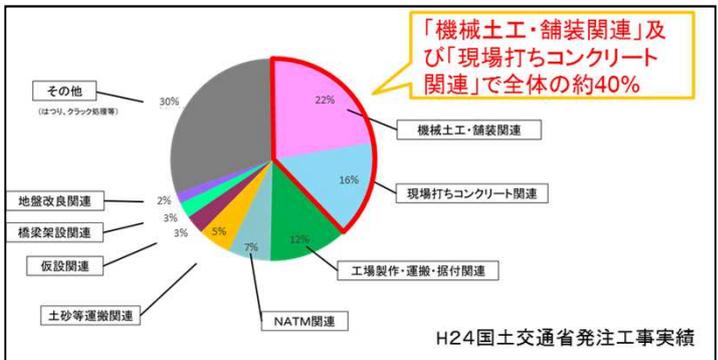
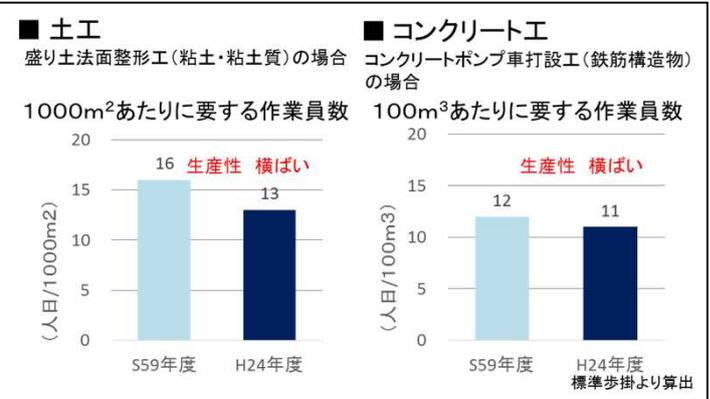
建設現場全体に占める、土工・コンクリート工事割合が合計約4割と高いにもかかわらず、約30年前と比べて生産性に変化が少ないため、この部分の生産性を向上させることが効果的と考えられています。

コンクリート工は、屋外作業では気象条件により作業が影響を受けやすく、計画的な施工が困難な特徴があります。さらに構造物によっては高所作業が必要となり危険が伴うとともに、作業が複雑なため技能労働者も一定のスキルが必要です。

一方、工場製作の課題としては、同サイズの製品を大量に使用する機会が限定的なためスケールメリットが生じにくい特徴があります。不必要な在庫を抱えられないので受注を受けてから生産するため安定的な生産によるコストダウンが難しい環境にあります。

これらの課題を踏まえ、コンクリート工全体の生産性向上を図るため、全体最適の導入、現場打ちコンクリート、プレキャスト製品それぞれの特性に応じた要素技術の一般化等の検討が進められています。

北陸地方は積雪寒冷地にあり、特に積雪の多い地区では冬期前での工事完成、また、比較的



積雪が少ない地区にあっても冬期の通年施工を可能とする必要があったため、従来からボックスカルバート、擁壁、一部の河川構造物については、プレキャストの採用を標準としております。

